

第三者メッセージ

カシオ環境報告書2003の評価

持続可能な社会をイメージする力

環境報告書の制作プロセスを共有することによって、環境報告書の第三者評価という枠組みを超えることになった。2003年においては「一方的に結果の評価をするだけでは、持続可能な社会へ向けての企業活動を活性化・加速化することにはつながらない」「新しい経営資源の発掘にならない」「環境報告書の制作過程を様々な業績の向上に結びつける営みにはなりえない」といった考え方から、持続可能性に対する意欲と技術開発の実体を把握するために、環境経営に関する役員懇話会に参加し、誠実な取り組みとモノづくりに対する情熱を実感することとなった。その中でも社会的責任のページに経営理念である「創造 貢献」並びに「カシオ創造憲章」「カシオ倫理行動規範」を上げ、創造性と環境貢献・社会貢献の関係をカシオ企業文化の独自性として明確

化しているところが、2003年のハイライトである。

総合的なアプローチで 堅実な進展を目指す

環境法規制対象有害物質の廃止においては、全廃を目指して期限を設定し公表している。リサイクルは事業部門と推進事務局の連携が体系的に組織化され、回収システムも社会的な仕組みとして定着化しつつある。次世代環境対応商品開発は独自の技術による軽量燃料電池の商品化へ向け推進中であり、商品化されれば使用時における環境負荷の低減に大きく貢献するであろう。社会への発信は詳細なパフォーマンスデータを含めカシオ計算機のホームページで公開している。

課題に対しての挑戦

今後の課題に対する取り組みに関しては、報告書の各所に目標達成基準を明確化して記載されている。さら



「環境を考えるプランナーの会」代表
飯島ツトム

にパフォーマンスを上げるには、ステークホルダー・ダイアログを実施し、環境コミュニケーションをユーザーからサプライチェーンまで活発に行うことである。その創造的コミュニケーション活動をとおして、カシオの存在意義が社会に対してより明確になり、持続可能な社会の発展にさらなる貢献がもたらされることになるだろう。

「軽・薄・短・小・ローパワー」という技術をもって、あらゆる生活シーン、ビジネスシーンにおけるエレクトロニクス機器の提供を経て、ユビキタス社会に新たな生活のクオリティーをもたらすカシオ計算機の取り組みに、総合的創造活動の時代へ向けての確かなエネルギーと独自性を見いだすことができた。

編集後記

カシオ「環境報告書2003」を最後までご覧いただきありがとうございます。

弊社として環境報告書の発行はこれで5回目となります。

読者対象をカシオユーザーである一般の方々、カシオグループの社員とし、読みやすくわかり易い内容とすることを心がけております。

今回の環境報告書は、「持続可能な社会を目指して」というサブタイトルをつけました。これは、カシオグループの環境活動に対する情報を開示するという従来の枠組みから一歩進めて、企業の社会性についてGRIの「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」を参考にまとめています。

これからの企業は、収益を上げるだけでなく、社会的責任を果たしていかなければ存続することができません。このような観点に立って、今回、環境NGO「環境を考えるプランナーの会」代表 飯島ツトム氏と弊社役員との懇話会を実施し、カシオの経営理念「創造 貢献」を通じた環境に対する考え方を各々の立場から語っていただきました。

カシオグループが将来進むべき方向性を少しでも皆様に示すことができたかと考えています。

「環境報告書2003」を通じカシオの環境経営に対する皆様のご意見、ご感想をいただければ幸いです。

品質・環境センター 環境管理室一同